

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援 ほしのごキッズ			
○保護者評価実施期間	令和6年11月14日		～	令和6年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	20
○従業者評価実施期間	令和6年11月14日		～	令和6年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年12月10日			

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童と保護者への支援	児童と保護者により良い支援ができるよう日々のミーティングや研修等で情報共有や療育について考える時間を設けている。また、保護者より相談があった際には、迅速な対応をするよう心掛けている。そのほか、保護者会を行っており保護者が意見を発信をする場を設けている。	日々の療育だけでなく、姉妹教室と連携をし、姉妹教室の児童と関わることや専門職員から意見を聞くなどしながら学びの場を増やし療育や保護者の支援に繋げていく。
2	姉妹教室との連携	大田区内に姉妹教室が複数あるため、合同療育を行うことや、夏祭りやクリスマスコンサートなどを全教室が集まって行うことができている。また、児童発達支援から放課後等サービスに移行しても、職員間で情報共有ができ切れ目のない支援をすることができる。	イベント事については、感染症の蔓延後徐々に規模を大きくして行っている。事業所も増えているため、企画を練りながらそれぞれの児童が主役となるような場面を設けることができるようにしていく。また地域の方々が参加できる仕組み作りを行う事で、地域との繋がり、世代間交流を促していく。
3	活動プログラムの柔軟さ	支援内容については、固定化せずにそれぞれの視点から考えて療育を行っている。また、ミーティングや療育後には、取り組んだ療育内容について振り返りを行い反省や提案など意見を出し合う時間を設けている。	支援内容をより良いものにするには、それぞれの知識を深めることが必要と考えられる。研修や日々の話し合いを通して学びを深めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者へのマニュアル等の周知	各マニュアルは作成しているものの、改めて伝える機会が設けられていないことで保護者の目に入りにくいところがある。	マニュアルを作成していることや作成したマニュアルを基に研修や訓練を行っていることをHUGやSNSを活用して周知する。
2	各幼稚園・保育園等の他の子どもと関わる機会がない	職員と園の先生との関わりはあるものの、感染症が流行り交流する機会が減って以降、子ども同士の関わる場が設けられていない。	インクルージョンの視点からも、今後、園と合同で関わる機会を設けるなどして地域との関わり合いを増やしていく。
3	地域の関係機関との連携が少ない	児童が通っている幼稚園には訪問する機会を設けており、情報共有をしているが、保育園とは連携が取れていない園もある。	日程が合わず園への訪問が難しい場合には、電話などで情報共有をするなど、できることから行っていく。